

防災訓練実施結果報告書の要旨

○川内原子力発電所における総合訓練（複数の訓練を組み合わせて行う訓練）

訓練実施日	2021年2月18日		
参加人数	498名（協力会社17名を含む）		
想定した原子力災害の概要	<p>○1, 2号機で原子力災害対策特別措置法第15条事象等に至る原子力災害を想定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定格熱出力一定運転中に、地震発生により、1号機は原子炉自動停止、2号機は原子炉手動停止。その後、外部電源を喪失。 ・1号機は、原子炉冷却材漏えい時における非常用炉心冷却装置による一部注水不能事象が発生。 ・2号機は、全交流動力電源喪失、その後、蒸気発生器給水機能喪失等により、原子炉冷却機能喪失。 		
訓練の内容	<p>以下の項目を「シナリオ非提示」にて実施</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【発電所】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) AM訓練 (2) 緊急時対応訓練 (3) 通報訓練 (4) モニタリング訓練 (5) 避難誘導訓練 (6) 原子力災害医療訓練 (7) 原子力防災要員等の動員訓練 (8) わサイトセンター連携訓練 (9) 火災対応訓練 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【本店即応センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 通報訓練 (2) 緊急事態支援組織対応訓練 (3) モニタリング訓練 (4) ERC(原子力規制庁緊急時対応センター)との連携訓練 (5) 原子力防災要員等の動員訓練 (6) 原子力事業者間協力協定に基づく対応訓練 (7) 発電所支援対応訓練 (8) プレス対応訓練 (9) 住民避難支援対応訓練 </td> </tr> </table> <p>【後方支援拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 発電所支援に係る本店即応センターとの連携訓練 	<p>【発電所】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) AM訓練 (2) 緊急時対応訓練 (3) 通報訓練 (4) モニタリング訓練 (5) 避難誘導訓練 (6) 原子力災害医療訓練 (7) 原子力防災要員等の動員訓練 (8) わサイトセンター連携訓練 (9) 火災対応訓練 	<p>【本店即応センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 通報訓練 (2) 緊急事態支援組織対応訓練 (3) モニタリング訓練 (4) ERC(原子力規制庁緊急時対応センター)との連携訓練 (5) 原子力防災要員等の動員訓練 (6) 原子力事業者間協力協定に基づく対応訓練 (7) 発電所支援対応訓練 (8) プレス対応訓練 (9) 住民避難支援対応訓練
<p>【発電所】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) AM訓練 (2) 緊急時対応訓練 (3) 通報訓練 (4) モニタリング訓練 (5) 避難誘導訓練 (6) 原子力災害医療訓練 (7) 原子力防災要員等の動員訓練 (8) わサイトセンター連携訓練 (9) 火災対応訓練 	<p>【本店即応センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 通報訓練 (2) 緊急事態支援組織対応訓練 (3) モニタリング訓練 (4) ERC(原子力規制庁緊急時対応センター)との連携訓練 (5) 原子力防災要員等の動員訓練 (6) 原子力事業者間協力協定に基づく対応訓練 (7) 発電所支援対応訓練 (8) プレス対応訓練 (9) 住民避難支援対応訓練 		
訓練の評価	<p>○発電所、本店、後方支援拠点及び各支店等が連携し、原子力災害発生時に発電所及び本店の原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮できることを確認。</p> <p>○2020年度の訓練目標※について、原子力災害対策活動に支障を与えることなく対応できていることを確認。</p> <p>※ 2020年度の訓練目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練と連動した現場実働の習熟 ・一部の対応要員喪失による対応 ・新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた対策本部要員を分散した対応での連携確認 ・新EALを使用した適切な通報連絡の実施 <p>○これまでの訓練から抽出された改善点について、その対策の効果を確認。なお、2019年度訓練の主な改善項目への対応状況は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初動対応に係るERCへの状況説明時に活用するチェックシートの作成 ⇒「ERC対応ブース初動対応チェックシート」を作成し、必要なツールの活用や対応内容を明確にすることで、円滑な初動対応を行うことができた。 ・複数号機同時発災時の状況報告の発話ルールを明確化 ⇒状況報告が輻輳する場面での発話タイミング等のルールとして「緊急時対策本部運営時の心得」に「報告の優先順位」を考慮して報告を行うよう明確化することで、円滑な情報共有を行うことができた。 ・全体戦略の優先順位説明時の手引きや説明ツールの見直しを実施 ⇒「発話ポイント」の発話例及び「設備状況・戦略シート」の見直しを行ったことで、即応センター内やERCに対し、全体戦略の優先順位を踏まえた説明を行うことができた。 ・複数のバックアップ手段の準備状況の説明方法の明確化 ⇒複数のバックアップ手段の説明方法を「発話ポイント」の発話例に明記し、ERCとの発電所状況の円滑な情報共有を行うことができた。 		

今後に向けた改善点等	<p>○更なる防災対応能力の向上を図る観点から、今後の訓練に反映する主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラント状況をERCへ必要なタイミングで説明できるよう、情報共有シートの入手方法等について見直しを行う。 ・ERCに対してよりわかりやすく説明するため、プラントパラメータの変化や機器停止等の状態変化に加え、それに伴い予測される事象や操作等の説明を行うことを心掛けるよう周知する。
------------	--

○川内原子力発電所における要素訓練（作業手順の習熟を図る個々の訓練）

・対象期間：2019年11月1日～2021年3月31日

項目	実施日	参加人数	訓練の概要	今後に向けた改善点
A M 訓練	2019年 11月20日、 21日	43名	○事象進展予測及び収束手段の選択が適切にできることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・なし （今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）
	2020年 9月2日、 4日	44名		
避難誘導訓練	2020年 1月31日	292名	○見学者来訪時に緊急事態が発生したことを想定し、関係者への迅速な連絡及び避難誘導ができることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・なし （今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）
	2021年 1月28日	277名		
緊急時対応訓練	2020年 3月12日、 17日、 19日	65名	○発電所において全交流動力電源が喪失したことを想定し、重大事故等発生時における緊急時対応訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・なし （今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）
	2021年 3月12日、 15日、 17日	65名		
原子力災害医療訓練	2020年 10月28日	16名	○管理区域内で負傷者が発生したことを想定し、負傷者の搬出、汚染の除去、応急措置等の訓練を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・なし （今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）

モニタリング訓練	2020年 12月23日	14名	○緊急時モニタリング（放射性物質濃度、放射線量の測定等）に係る対応能力の向上を図る。	<p>・なし</p> <p>（今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）</p>
通報訓練	2021年 1月26日	47名	○通報連絡要否判断、通報連絡文の確実な作成及び社内外関係箇所へ迅速かつ確実な通報連絡ができることを確認する。	<p>・なし</p> <p>（今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）</p>
緊急事態支援組織対応訓練	2021年 3月18日、 19日	2名	○発電所において原災法第10条事象が発生したことを想定し、原子力緊急事態支援組織への支援要請及び遠隔操作資機材の操作訓練を実施し操作技能の習熟を図る。	<p>・なし</p> <p>（今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）</p>
その他訓練（後方支援拠点の設置・運営訓練）	2021年 3月11日	54名	○後方支援拠点の設置が指示されたことを想定し、立ち上げから運営までの一連の各作業班の役割を確認するとともに、予め定められた機能を有効に発揮できることを確認する。	<p>・なし</p> <p>（今後も、訓練において状況を確認し、更なる改善を検討していく）</p>

用語等の解説

○ A M (Accident Management)

アクシデントマネジメントのこと。原子炉の燃料が重大な損傷を受ける事故への拡大防止や万が一拡大した場合の影響を緩和するための対策。

○ E R C (Emergency Response Center)

原子力規制庁緊急時対応センターのこと。原子力施設で災害が発生した場合に、政府の活動拠点となる機関。

○ E A L (Emergency Action Level)

緊急時活動レベルのこと。事故の進展に応じて避難の準備等を行うため、原子力施設の事故の状況に応じて3段階に区分（警戒事態、施設敷地緊急事態、全面緊急事態）し、その判断基準として設定したもの。

以 上